



TITLE:

はじめに

AUTHOR(S):

田中, 雅一

---

CITATION:

田中, 雅一. はじめに. コンタクト・ゾーン 2014, 6(2013): 2-2

ISSUE DATE:

2014-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/198489>

RIGHT:

# はじめに

本誌『Contact Zone (コンタクト・ゾーン)』は、人文科学ならびに社会科学で注目されている接触領域<sup>コンタクト・ゾーン</sup>についての研究を公表し、議論を活性化する場を提供するために企画された不定期刊行物として、2008年に公刊された。当時、本誌は京都大学人文科学研究所・人文学国際研究センターの基幹プロジェクトである「複数文化接触領域の人文学」(田中雅一 代表)の研究成果を報告する媒体であった。プロジェクトは修了し、その成果は『コンタクト・ゾーンの人文学』(全4巻)として2012年から翌13年にかけて晃洋書房出版されている。

本誌は、本号から出版拠点を人文科学研究所から大学院人間・環境学研究科(文化人類学分野)に移し、以下の3点において編集体制を一新した。まず、文化人類学分野の教員と外部委員からなる編集委員会を組織した。つぎに、本誌の趣意に賛同する研究者・大学院生に広く投稿を呼びかけるとともに、厳格な査読体制を導入した。最後に、より多くの読者に読まれることを期待してオンラインによる公刊を開始した。なお、投稿規程は<http://www.anth.jinkan.kyoto-u.ac.jp/contactzone.html>を参照されたい。なお、本誌のバックナンバーもオンラインで公開している。

コンタクト・ゾーンは、アメリカの文学研究家のマリー・ルイーザ・プラットが『帝国のまなざし』(1992年公刊)で使用した概念として知られている。彼女はヨーロッパを中心とする植民地宗主国(厳密には都市部であるメトロポリタン)と非ヨーロッパ諸国(およびヨーロッパの非都市部)との非対称的な、しかし一方的ではない、「接触」を主たるコンタクト・ゾーンとして想定している。ただし、本誌所収の諸論文から明らかなように、本誌では彼女の問題意識を継承しつつも、対象の拡大や地域概念批判など、さらなる展開を目指していることをことわっておきたい。

本号は、京都大学大学院人間・環境学文化人類学講座設立20周年を記念して開催された連続講演とシンポジウムの発表に基づく、現スタッフによる論文を4本、また投稿論文を2本、研究ノートを1本掲載している。対象も専門も異なるが、コンタクト・ゾーンという観点から研究対象に迫るという点で共通している。コンタクト・ゾーンに関わる書物を対象とする書評も併せて読んでいただければ幸いである。

最後にオンライン化については、ブックデザイナーの木戸麻実氏に感謝したい。また、編集にあたっては、編集工房isの石川泰子氏、編集委員会の金子守恵と朝日美佳の両氏にお世話になった。

田中雅一(編集代表)

2014年3月